

令和4年産

大崎麦作情報 第1号

令和3年10月7日発行

宮城県大崎農業改良普及センター

TEL0229-91-0726 FAX 0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

～令和4年産麦の安定生産に向けて～

○生育量を確保する

→適期播種：10月5～10日が適期

10月20日が晩限

○遅れ穂を少なくする

→麦踏み（踏圧）：年内1回，越冬後1～2回が目安

○収量，外観品質等の改善

→追肥：幼穂形成期，減数分裂期，穂揃期（小麦のみ）

時期	10月			11月			12月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生育ステージ		出芽 ←→				幼（2 葉期） →			
主な作業		播種 ↓					麦踏み（越冬前） ←→		
		除草剤散布 ↓						除草剤散布 ←→	

年内の栽培ごよみ

年内目標生育量

葉数：5～6枚，分けつ：1～2本/株，莖数：400～500本/m²

1 ほ場準備

(1) 排水対策 ～明きよ、暗きよを施工しましょう～

麦は湿害に弱い作物です。明きよと暗きよを適切に施工して排水対策を行いましょう。

○明きよ

- ・ 額縁に沿って深さ30～50cm程度の溝を設けましょう。
- ・ 明きよと排水溝は必ず連結させましょう。
- ・ 排水不良のほ場は、ほ場内にも5～10mの間隔に1本の割合で明きよを掘り、ほ場外へ排水できるようにしましょう。

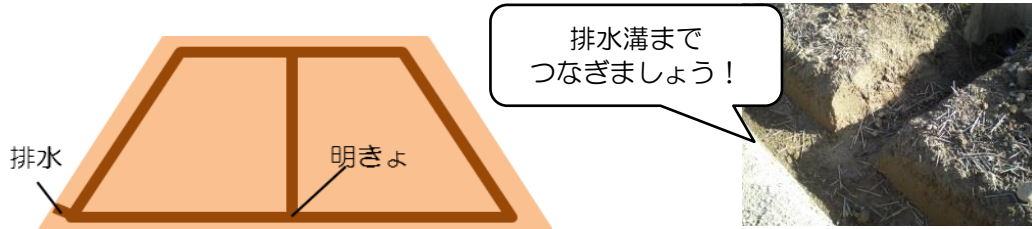


図1 明きよの施工例

写真1 明きよと排水溝をつなぐ

○暗きよ

- ・ 本暗きよと補助暗きよをセット！
- ※補助暗きよは、弾丸暗きよや心土破碎が一般的。

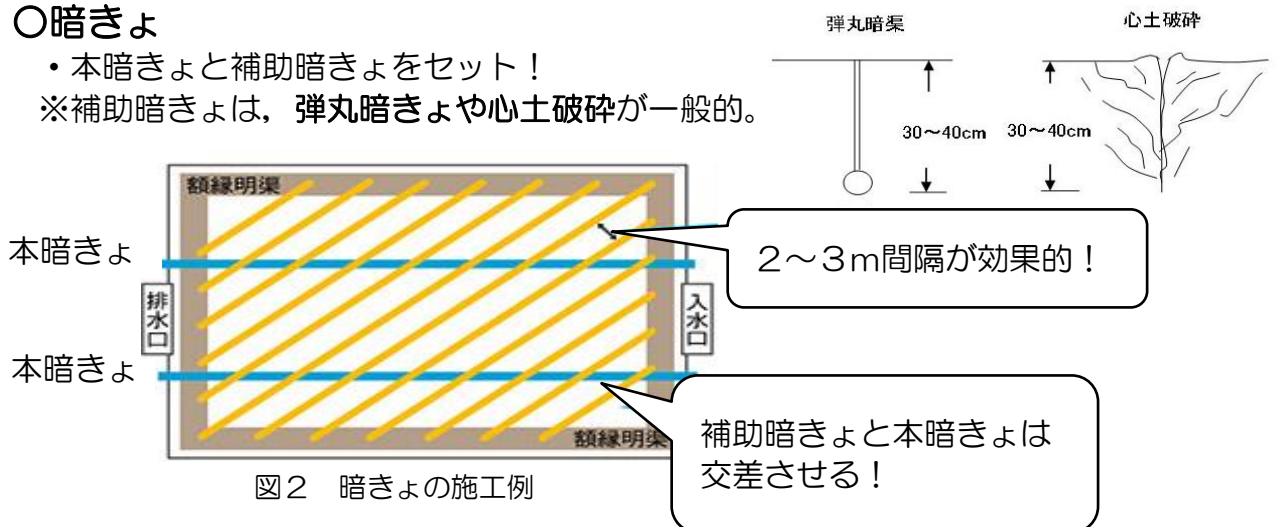


図2 暗きよの施工例

(2) 土づくり

○酸度矯正

- 麦は微酸性～中性の土壤酸度を好みます。
- 定期的に土壤診断を受け、土壤酸度を調整しましょう。
- 目安：大麦…pH6.1～7.0、小麦…pH5.6～6.5
- ※転換畑の土壤酸度は通常 pH5.0～6.0

○地力増進

- 毎年堆肥等を投入し、地力維持に努めましょう。
- 有機物は土壤の物理性改善、微生物の増殖、緩効的養分供給の効果が有ります。
- 目安：稲わら・粃殻等が主体の堆肥…2t/10a 程度
- 牛ふん堆肥（窒素含有率1%程度）…1t/10a 以内
- 豚ふん堆肥（窒素含有率2%程度）…500kg/10a 以内

(3) 基肥 ～標準施肥量/10a～

窒素 8～10kg, リン酸 8～10kg, 加里 10kg

※稲わらをすき込んだほ場は、窒素を1～2割増で施用してください。

2 播種

(1) 適期播種 ～適期播種で生育量を確保しましょう～

播種適期…10月5～10日(北部平坦地域)

播種晩限…10月20日(北部平坦地域)

播種が遅れるとさまざまな弊害があります。

適期播種を行い、越冬前に十分な茎数を確保しましょう。

播種遅れによる弊害

出芽遅れによる初期生育量の不足、根張りの不良、茎数不足、出穂のバラつき、未熟粒の発生等が挙げられます。

その結果、収量と品質の低下に繋がります。

(2) 播種量・播種方法 ～適切な播種を心がけましょう～

○播種量：8～10kg/10a(ドリル播き)

播種時期が10月20日を過ぎる場合は、茎数確保のため、播種量をやや多めにしましょう。

○播種方法(ドリル播き)

条間は20～25cm、播種深度は3cmが目安。

播種作業にあたっては、砕土を入念に行い、覆土不良や浅播きにならないよう注意してください。

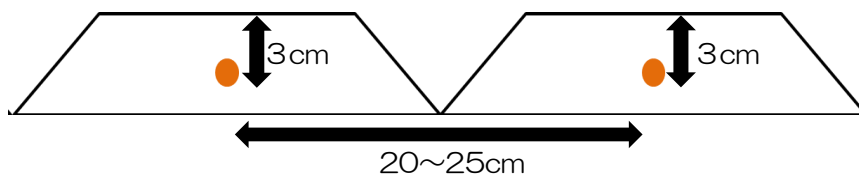


図3 播種の目安



写真2 播種の様子(ドリル播き)

3 雑草防除(土壌処理剤)

雑草は土壌養分の競合、病害虫の誘発、種子混入等により品質・収量に影響します。前年の雑草の発生が多いほ場では必ず土壌処理剤を散布しましょう。

土壌処理剤の効果を上げるためには、ほ場の砕土率を上げる・早めの散布(播種翌日まで)・適度な土壌水分時の散布を心掛けましょう。

※土壌乾燥時に散布する際は、登録範囲内にて希釈水量を多くしましょう。

表1 小麦の主な土壌処理剤一覧

除草剤名	対象	使用時期	希釈倍数使用量 (散布液量)
ガレス乳剤	一年生雑草	播種後出芽前(雑草発生前)	200~250mL/10a (100L)
ボクサー	一年生雑草	播種後麦2~4葉期まで (雑草発生前~雑草発生始期)	400~500mL/10a (70~100L)
シナジオ乳剤	一年生雑草(ツクサ科, かツリグサ科, 苧科を除く)	播種後出芽前(雑草発生前)	300~400mL/10a (100L)

農薬の登録情報(令和3年10月1日現在)

4 麦踏み(踏圧)

耐寒性, 耐干性強化などのために麦踏みを行いましょ。

○作業時期: 越冬前の12月上~中旬

※2回目以降は3月上・中旬(生育が再開する再生期以降)に行いましょ。

○生育状況: 離乳期(3~4葉期)~茎立ち前(主稈長2cm, 幼穂長2mm程度)

※幼穂長が3mm以上になると麦の生育に悪影響を及ぼすので注意しましょ。

主な効果 ~メリットがたくさん!!~

○麦への効果

耐寒性, 耐干性の強化, 徒長や茎の早立ちの防止, 分けつの増加,
分けつ相互の生育調整, 穂揃いの均一化, 深根化, 稈の強剛化

○土壌への効果

霜柱, 干害による被害の軽減, 強風による土移動の軽減と防止。

遅まきの場合, 麦の生育量が足りず茎が折損する恐れがあります。

また過湿ほ場の場合, 耕土を固結させて根の発育を阻害する恐れがあります。

いずれも逆効果なので, 麦の生育状況とほ場の状態にご注意してください。

◆◆◆◆◆秋の農作業安全確認運動実施中(9月1日~11月30日)◆◆◆◆◆

機械の操作ミス, 過信と慣れによる安易な作業が重大事故に結びつき, 依然として農作業死亡事故が発生しています。ゆとりをもった正しい操作により事故を未然に防ぎましょ。

重点推進テーマ 「見直そう! 農業機械作業の安全対策」